

瀬戸内海観光施設整備地域

土地分類基本調査

仁尾・寄島

5万分の1

国土調査

香川県

1976

序 文

国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査は、地形、表層地質、土壤等、土地の自然的条件を科学的、総合的に調査し、地域の特性に応じた各種開発計画及び土地利用区分の立案に必要な基礎資料を提供するものです。

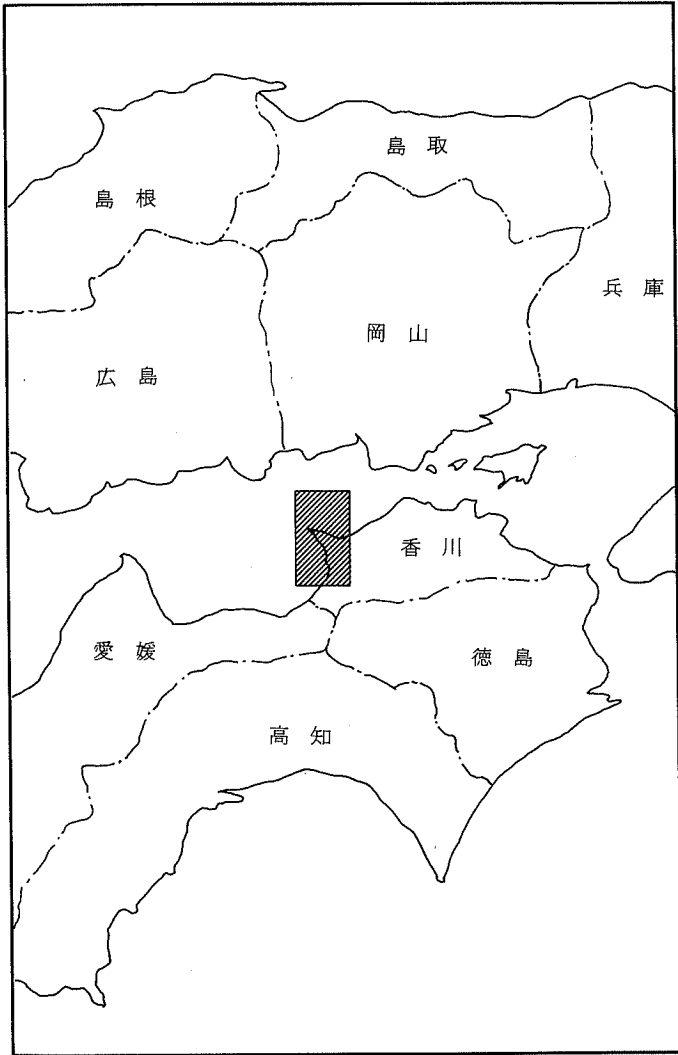
本調査は、昭和43年度に国において「丸亀」図幅を実施したのを初年度とし、本県では昭和45年度から毎年実施しており、今回は「仁尾・寄島」図幅について調査を行ない、ここにその成果をとりまとめました。

本調査の実施にあたってご協力をいただいた関係者並びに、企画調整をいただいた国土庁土地局国土調査課に対し、深く謝意を表する次第です。

昭和51年3月

香川県企画部長 平井城一

位 置 図



目 次

序 文	
総 論	
I 位置および行政区画	1
II 地域の特性	3
1 地勢, 気象	3
2 人口, 世帯数	4
3 交 通	5
4 産 業	5
III 開発の現況と方向	11
各 論	
I 地形分類	13
1 地形概況	13
2 地形各論	13
II 表層地質	18
1 表層地質概説	18
2 表層地質各論	18
III 土 壤	22
1 山地・丘陵地の土壌	22
2 台地・低地の土壌	24
IV 傾斜区分	29
V 水系・谷密度	31
VI 防 災	32
VII 開発規制	37

調査担当者一覧

調整 国土庁土地局国土調査課

総括 香川県企画部企画調整課

地形分類調査 香川大学教育学部 高 桑 紘

表層地質調査 香川大学農学部 斎 藤 実

土壌調査 (林地土壌) 農林省林業試験場 四国支場

(農地土壌) 香川県農業試験場

開発関連調査 香川大学教育学部 高 桑 紘

(傾斜区分調査)

(水系・谷密度調査)

(防 災 図)

(開発規制図)

総論

I 位置および行政区画

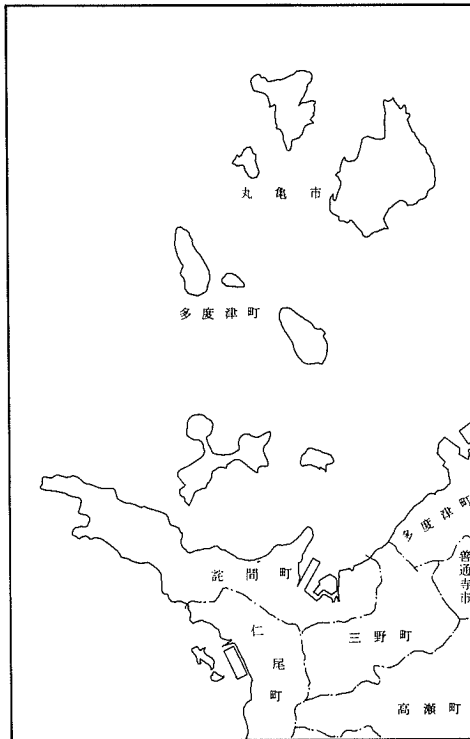
1 位置

「仁尾」，「寄島」図幅は、香川県の西部に位置し、経緯度では、東経 $133^{\circ}30'$ ～ $133^{\circ}45'$ 、北緯 $34^{\circ}10'$ ～ $34^{\circ}30'$ の範囲内である。

2 行政区画

本図幅の行政区画は、第1図のとおり丸亀市、善通寺市、仲多度郡多度津町、三豊郡高瀬町、三野町、豊中町、詫間町、仁尾町の2市6町からなっている。

第 1 図



第1表 図幅内市町別面積

市町名	図幅内面積		市町面積 (B) km^2	A/B×100 (%)
	実数(A) km^2	構成 (%)		
丸 亀 市	16.24	13.5	64.05	25.4
善 通 寺 市	4.31	3.6	39.68	10.9
仲多度郡 多度津町	13.41	11.1	24.32	55.1
三豊郡 高瀬町	20.19	16.8	56.29	35.9
〃 三野町	19.23	16.0	19.23	100.0
〃 豊中町	1.39	1.1	19.83	7.0
〃 詫間町	31.09	25.8	31.09	100.0
〃 仁尾町	14.62	12.1	15.80	92.5
計	120.48	100.0	270.29	44.6

資料：建設省国土地理院による。

II 地域 の 特 性

1 地勢・気象

(1) 地勢

本図幅の地域は、塩飽諸島の西半分と荘内半島およびその付根部を含み、小面積の高瀬川下流等の沖積平野を除くと、ほとんどの面積を花崗岩の島しよ、丘陵が占めている。

瀬戸内海の多島海景観を典型的に示す塩飽諸島の中でも、佐柳島・高見島・粟島は、荘内半島の中央部の紫雲出山、沖積平野の中にキツ立する弥谷山・我拝師山とともに、その山頂部に安山岩・玄武岩を残して、メーサ・ピュートの特異な形容を示している。

島しよと荘内半島の海岸線は屈曲に富み、各所に白砂青松の海岸と良質の港を提供している。

(2) 気象

本図幅の気候は、温暖寡雨の瀬戸内式気候で、年平均気温は 16.2℃と比較的暖く、降雨量は、867 mmである。ただ春から初夏にかけて多発する瀬戸内海特有の濃霧は、本土と島しよ部の交通輸送を途絶させるなど住民生活に支障をきたしている。

多度津町における昭和48年の気象概況は、第2表のとおりである。

第2表 気 象 概 況

月別 区分	年平均 (年合計)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月別最高気温	20.0℃	10.0	10.4	12.3	19.1	22.5	26.0	32.6	32.7	26.8	21.6	16.0	10.1
月別最低気温	12.4℃	3.1	3.4	3.8	10.8	14.3	18.7	24.7	25.3	19.6	14.2	8.1	3.0
月別平均気温	16.2℃	6.6	6.9	8.0	15.0	18.4	22.4	28.7	29.1	23.2	17.9	12.1	6.6
月別降水日数	133日	13	12	5	19	10	14	3	10	22	15	6	4
月別降水量	867mm	87	47	13	156	72	94	5	79	166	118	23	7

資料：香川県統計年鑑（昭和50年刊行）による。

第4表 農業就業人口・農家戸数

市町名	昭和40年 (A)		昭和45年		昭和50年 (B)		B/A (%)	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
丸亀市	4,386	11,967	4,065	11,436	3,804	10,241	86.7	85.6
善通寺市	2,991	8,216	2,868	9,015	2,775	7,864	92.8	95.7
多度津町	1,816	4,883	1,679	4,987	1,562	4,326	86.0	88.6
高瀬町	2,843	7,883	2,845	8,622	2,810	8,090	98.8	102.6
三野町	1,483	4,301	1,453	4,241	1,466	4,516	98.9	105.0
豊中町	1,716	5,027	1,666	5,222	1,622	4,866	94.5	96.8
詫間町	2,217	5,427	2,022	5,161	1,774	4,091	80.0	75.4
仁尾町	849	2,305	827	2,281	806	2,174	94.9	94.3
計	18,301	50,009	17,425	50,965	16,619	46,168	90.8	92.3
香川県	83,182	233,810	78,961	236,677	74,577	217,744	89.7	93.1

資料：昭和40年、50年は農業センサス、45年は世界農林業センサスによる。

第5表 土地利用の概況（昭和50年）

（単位 ㌦a）

区分 市町名	総面積	耕地計	田	畑	樹園地	山林	耕地率
	(A)	(B)					B/A
丸亀市	6,405	1,704	1,536	83	85	1,987	26.6
善通寺市	3,968	1,487	1,149	28	310	1,025	37.5
多度津町	2,432	718	537	46	135	551	29.5
高瀬町	5,629	2,076	1,082	140	854	1,671	36.9
三野町	1,923	779	558	55	166	422	40.5
豊中町	1,983	894	637	33	224	341	45.1
詫間町	3,109	486	160	199	127	1,265	15.6
仁尾町	1,580	500	64	35	401	481	32.5
計	27,029	8,644	5,723	619	2,302	7,743	32.0
香川県	187,778	41,195	29,509	3,545	8,141	91,980	21.9

資料：1975年農業センサスによる。

第 6 表 農業粗生産額（昭和 49 年）

（単位百万円）

区分 市町名	粗生 産額	耕 種				畜 産				
		計	うち 米	うち 野菜	うち 果実	計	うち 肉用牛	うち 乳用牛	うち 豚	うち にわとり
丸 亀 市	3,534	2,634	1,667	548	164	900	37	20	171	667
善通寺市	3,133	2,719	1,235	854	316	414	24	125	197	67
多度津町	1,522	1,301	572	217	399	221	16	16	59	129
高瀬町	4,789	2,833	969	738	523	1,953	311	300	332	1,007
三野町	1,872	1,113	596	240	152	759	233	91	108	324
豊中町	2,974	1,895	681	266	437	1,079	370	66	101	536
詫間町	1,052	715	113	233	103	337	39	16	117	164
仁尾町	1,242	951	45	235	525	287	70	24	48	135
計	(1000) 20,118	(704) 14,161	(292) 5,878	(166) 3,331	(130) 2,619	(296) 5,950	(55) 1,100	(33) 658	(56) 1,133	(15.1) 3,029
香川県	(1000) 101,349	(645) 65,359	(27.1) 27,415	(15.0) 15,202	(8.3) 8,458	(35.4) 35,915	(5.7) 5,807	(5.5) 5,551	(6.5) 6,611	(17.5) 17,744

資料：生産農業所得統計による。（ ）内の数字は%を示す。

第7表 産業別就業人口（昭和45年）

（単位人）

区分 市町名	総数	第1次産業				第2次産業				第3次 産 業
		計	農業	林業 狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
丸亀市	31,696	6,175	5,527	6	642	10,258	289	1,838	8,131	15,263
普通寺市	19,024	4,536	4,528	2	6	4,335	5	1,125	3,205	10,153
多度津町	10,812	2,460	2,180		280	3,331	3	452	2,876	5,021
高瀬町	9,853	5,023	5,011	3	9	1,951	1	507	1,443	2,879
三野町	5,166	2,237	2,232	1	4	1,542	1	303	1,238	1,387
豊中町	6,729	2,637	2,634		3	2,006	6	313	1,687	2,086
詫間町	8,392	2,533	1,893		640	2,917	4	472	2,441	2,942
仁尾町	4,142	1,316	1,236		80	1,593	4	321	1,268	1,233
計	95,814	26,917	25,241	12	1,664	27,933	313	5,331	22,289	40,964
香川県	486,877	123,270	115,217	472	7,581	145,489	1,418	31,748	112,323	218,118

資料：国勢調査による。

第 8 表 市町別製造品出荷額等

区分 市 町 名	事業所数	従業員数 人	現金給与額 万円	原 材 料	製 造 品	付加価値額
				使用額等 万円	出荷額等 万円	(従業員 19 人 以下は租付加 価 値 数) 万円
丸 亀 市	430	7,782	1,002,635	5,964,724	8,270,864	2,835,970
普通寺市	143	2,652	297,542	1,157,741	1,940,347	724,026
多度津町	155	3,239	342,384	1,773,965	2,787,306	893,745
高 瀬 町	84	1,025	77,426	287,900	464,960	172,634
三 野 町	53	1,085	98,408	210,493	470,030	260,852
豊 中 町	69	1,744	221,170	573,487	1,011,010	414,720
詫 間 町	77	2,902	375,061	1,380,402	2,030,441	648,582
仁 尾 町	79	896	77,393	167,947	308,265	140,580
計	1,090	21,325	2,492,019	11,516,659	17,283,223	6,091,109
香 川 県	6,689	105,961	12,615,209	70,261,295	107,673,488	39,501,511

資料：昭和 49 年工業統計調査による。

Ⅲ 開発の現況と方向

この地域は、香川県の西端に位置し、海と山に囲まれた地理形態により、温かな自然環境を温存している。

しかし、今後、瀬戸大橋の架橋，四国横断自動車道の新設，臨海部産業道路の新設等新交通ネットワークの発展に伴い、広域経済圏が形成されるものと考えられ、その一翼をになう方向で開発をはかる必要がある。

当地域の工業は、多度津町臨海工業地帯に基礎資源型工業とその関連産業があり、また詫間町臨海部に木材工業関連産業があり、これらを中心に環境保全に留意し、合理的な土地利用計画のもとにその発展をはかる。

一方、仁尾町では塩業廃止による塩田跡地に土地区画整理事業が進められており、合理的土地利用計画のもとに、自然と調和した街づくりを進める。

次に、当地区は風光明媚な瀬戸内海国立公園を背景に、豊かな自然と伝統的な文化遺産の織りなす観光地が散在しており、最近の観光レクリエーション需要の増大、さらには基幹交通網の整備により、観光客は増加するものと予想され、自然保護に留意しながら各利用施設の整備を促進する。また紫雲出山近隣を中心とする自然休養村は、レジャー・レクリエーション地域としての整備促進を図る。

また港湾については、船舶の大型化に対処するための地方港湾の浚渫、局部改良整備をはかるとともに、特に、詫間港は瀬戸内海唯一の木材港であり、将来の貿易港として、さらにその整備を促進する。

各 論

I 地形分類

1 地域概況

瀬戸内海を中心とする西日本の地形の基礎は東西および南北方向の地波あるいは基盤褶曲であって、本図幅付近は瀬戸内海を曲降させた東西方向の沈降軸と、室戸半島から阿讃山地を経て児島半島へ続く南北方向の隆起軸および土佐湾から燧灘を結ぶ南北方向の沈降軸が相接する所に当たる。

庄内半島以東の備讃瀬戸は沈降量が少ないため山頂部が海上に残り島が多く、この半島から西方の燧灘はこれに対し島が少ない。

この地域の山地や島は開析溶岩台地起原であるが、讃岐岩質安山岩などの溶岩は阿讃山地の中央を中心に北方へ放射状に開く花崗岩類の基盤上の割れ目から融出し、集塊岩・凝灰岩類を挟んで基盤を覆った。この安山岩類は花崗岩類よりも風化侵食に対する抵抗が強く、安山岩類に厚く覆われた谷の部分が高山頂として削り残され、この岩石に覆われなかった以前の花崗岩山地の山頂部が深く削剝されて谷となるような地形の逆転もあった。

海岸線の出入や島の配列・山稜の方向などはこのような岩石の硬軟の差や基盤の割れ目・断層の分布などに従う差別侵食の結果による場合が多いのである。

2 地形各論

(1) 山地・丘陵地

山地・丘陵地は5万分の1地形図の各辺を20等分した方眼中の最高点と最低点の比高による起伏量で区分した。起伏量400m以上を大起伏山地、200m以上を中起伏山地、200m未満150m以上を小起伏山地、150m未満100m以上を丘陵地(I)、100m未満の丘陵を丘陵地(II)とした。しかし、この地域には大起伏山地は存在しない。

中起伏山地は多度津町と三野町との境界にある弥谷山(381.5m)・黒戸山(299.3m)、この東方の嶺続きで多度津町と善通寺市の境界を成す天霧山(360.4m)、この山地南方にあり、善通寺市・三野町・高瀬町の境界にある

火上山 (408.9 m), 黒戸山西南の貴峰山 (222.8 m) などが図幅東南部に分布する。これらの山は花崗岩や閃緑岩の上に凝灰岩・角閃安山岩質集塊岩・讃岐岩質安山岩があり, 集塊岩の部分では差別侵食で奇岩怪石の山容を示している。高瀬町の爺神山 (226.6 m) は讃岐岩質安山岩のピュートだが採石のため山形が著しく変容した。高瀬・仁尾両町の境にある志保山 (426.0 m) も海拔 100 m 以上は凝灰岩を挟んで花崗岩類上に讃岐岩質安山岩があり, その北方の山地も同様の連峰型開析溶岩台地である。しかし, 高尾下山 (270.4 m) の山頂部は角閃安山岩, 紫雲出山 (352.4 m) は 260 m 以上が古銅輝石安山岩で, これらの安山岩類と基盤の花崗岩類との間には傾斜の急変線がある。また, 粟島の城山 (222.1 m), 広島の大戸山 (312.0 m) から北方の山地は花崗閃緑岩や黒雲母花崗岩, 手島の尾方山 (217.2 m) は雲母片岩などで山復はかなり急傾斜で山頂に平坦面はない。

小起伏山地には花崗岩類から成る鬼が白山 (199.5 m) と, 上に讃岐岩質安山岩をのせる汐木山 (171.3 m), 閃緑岩から成る粟島の阿島山 (181 m) などがある。

大起伏丘陵の丘陵地(I)は黒戸山北方, 高谷半島中部, 荘内半島先端部, 粟島東部, 志志島, 小島, 手島西北端と東南部に分布する。

小起伏丘陵の丘陵地(II)は多度津町の桃陵公園, 三野町と高瀬町の境界の葛の山, 高谷半島先端部, 粟島中央部, 小手島北部などに見られる。丘陵地は花崗岩類の地域が多い。

(2) 溶岩台地

この地域で山頂部に平坦面を残し, 溶岩台地として分類できる地形に佐柳島 (248.5 m) がある。この島は花崗岩の上に讃岐岩質玄武岩と安山岩質の集塊岩があり, 台地型から連峰型へ移行している開析溶岩台地である。

また, 高見島 (297.3 m) も同様の溶岩台地で, 花崗岩上に讃岐岩質安山岩が讃岐岩質安山岩質の集塊岩や輝石安山岩質集塊岩の上にある。最上部の讃岐岩質安山岩が造層層となって溶岩台地を形成した。

しかし, 山頂部に安山岩類が存在していても平坦面がなく, 外見上台地としては認められない開析溶岩台地起原の連峰状あるいは孤立丘状の地形は溶

岩台地として分類せず、起伏量に応じて山地または丘陵地として区分してある。

佐柳島東方の小島、三野町と多度津町の境界にある弥谷山や黒戸山・貴峰山、多度津町と普通寺市の境の天霧山、三野町の沙木山、三野・高瀬町界にある葛の山、高瀬町の爺神山、三野・仁尾町界を成す志保山、詫間町の庄内半島にある紫雲出山などはこのような開析溶岩台地に起原を持つ山地あるいは丘陵地であるが、葛の山、爺神山などには採石場があり山谷が大きな変化を示している。

(3) 山麓地と上位台地

山麓地は山地と傾斜急変線で境され、山麓に展開する開析の進んだ緩斜面で、頂部は平坦だが谷に刻まれた波状または山嘴状の地形である。この地形上に砂礫層が残存している場合が上位台地であるが、本図幅内で上位台地の分布は極めて狭く、山麓の一部や低い孤立丘の一部など小範囲に散在している。

山麓地と山地との境界は多度津町川西付近で海拔40mくらい、天霧山東北麓で60~100m、弥谷山・黒戸山・貴峰山・火上山・鬼が白山などの周辺で約100m、爺神山付近で40~80m、志保山から妙見山にかけては100~120m、紫雲出山周辺では80~120m、粟島の城山では約100mである。

上位台地は、高瀬町平池・北条付近にあり、平池付近では三豊層、北条付近では花崗岩の上に薄い粘土質の礫層が見られる。礫は花崗岩などの垂角礫で最大径は約5cm、2cm以下の小礫が多い。この礫の限界はほぼ海拔60m付近である。また、詫間町的場にある小丘にも海拔15~20mに約2mの層厚を持つ礫層があり、礫は安山岩質で最大5cmの垂角礫が多い。この礫層の基盤は風化の進んだ花崗岩である。

(4) 岩石台地と下位台地

平坦な台地状の基盤の各所に礫層遺物を残す地形を岩石台地とした。これは隆起波食台と推定できるが、上位台地・下位台地のどちらに区分してよいか不明の場合が多い。

下位台地はいわゆる洪積台地で比較的に厚い砂礫層から成る。また、河谷上流部では谷床を充填している所もあり、三野町大見付近のように沖積低地

に斜交埋設している所や、高瀬町下勝間付近のように段丘崖の比高が低く低地面に一部が覆われている所もある。

岩石台地は紫雲出山北麓の黒崎付近と新田付近および伊砂子北方、粟島の永浜付近と水尻付近、志志島の宮の浦付近、高見島の浦付近、手島の西浦付近などに分布する。

下位台地は三野町大見、高瀬町下勝間と上高瀬、同町比地、詫間町本村付近などにまとまった分布があり、多度津町見立や奥白方、普通寺市三井の浜、三野町吉津、仁尾町曾保・平原・家浦などにも認められる。

詫間町東部の松崎付近では3 mの厚さの花崗砂の上に厚さ0.2 mの黒粘土2枚を挟み花崗岩を母岩とする砂層と砂礫層約3 mが整合する露出がある。三野町丸尾では新しい道路の崖に安山岩70%、花崗岩30%の礫質を持ち最大径50 cmの亜円～亜角礫層が露出している。同町吉津の北村では海拔20 mに約70 cmの砂礫層があり、上部30 cmは最大径5 cm、下部40 cmは最大径12 cmの亜円～亜角礫で礫の母岩は安山岩と花崗岩である。

下位台地の堆積物は大部分が河川による砂礫層であって、北部の海岸に近い所に海岸に堆積した砂層が一部に存在する。

(5) 低地

低地には山麓の小河川が造った小扇状地と河川下流の氾濫原・三角州や海岸付近に波が砂を打ち上げた浜堤や砂州、人工の旧塩田を含む埋立地などがある。

多度津町の弘田川下流沿岸は低湿な三角州で、河口付近の西白方や海岸寺、浜の海岸には浜堤が発達し、現在の海岸線はほとんど護岸で保護されている。同町奥白方、普通寺市西碑殿、三野町成行、仁尾町の石が谷・北草木・朝日などには小扇状地があり、丸亀市広島の釜の越・甲路・青木・市井・茂浦などには沖積堆ともいえる急勾配の小扇状地がある。また、土石流地形は仁尾町の平原東方、詫間町の香田・上和田内などに存在するが香田では整地されて、その人口平坦地に詫間電波工業高等専門学校が設置されている。

高瀬川本支流沿岸には氾濫原が拡がり、縄文海進で海底に没し、その後の海退で陸上に現われた海岸平野の上を覆っているが、浅津・出井・東浜・西

浜・津の前・田中・汐木を結ぶ線から北方は三野津新田の干拓地で新田地割が卓越している低湿な地域である。

仁尾町の低地の海岸にある町の中心部や詫間町の的場から須田に至る街村も浜堤上にあるが、伊砂子から大浜の低地は砂州が海食台の上を覆い荘内半島の先端部は陸繋島になった。高谷半島や粟島の阿島山・柴谷山も同様である。このほか岩石海岸の岩質が比較的侵食されやすい部分が掘り込まれた湾頭において浜堤が発達し、その内側に後背湿地を埋めた小河川の氾濫原が分布する。

新しい埋立地では多度津町が昭和49年に完成した港の東西両側の埋立地、詫間町が昭和47年までに三野津港中央部などに造成した埋立地がある。

また、旧塩田の造成状態を見ると、詫間町では文安2(1445)年ごろ須田浜、寛文13(1674)年ごろ塩生古浜、貞享1(1684)年ごろ松崎古浜(約4ha)、延宝2(1674)年から元禄16(1703)年に詫間古浜(約7.5ha)、天保14(1846)年に詫間新浜(約4.5ha)、明治35(1902)年に塩生浜(4.5ha)、同36年に松崎浜(29.6ha)、同43年に西野浜(28.1ha)、大正1(1912)年に松崎沖浜(22.3ha)、昭和21(1946)年に日新浜(7.2ha)が造成された。仁尾町では古くから塩業が行われ、鰯谷に揚浜塩田跡らしい円形地割の田畑があり、江尻川の下流、天王北方にも塩田があったという。天保7(1836)年に旧浜(5.5ha)が築造され、大正9(1920)年に着工した新浜塩田は同13年に完成し59haの入浜式塩田が出現した。塩業革命によってこれらの塩田はすべて廃止され、詫間町の松崎旧塩田・松崎沖旧塩田はゴルフ場、西野旧塩田・塩生旧塩田は宅地・工業用地など、仁尾旧塩田はエビ養殖場・宅地・工業用地などに利用されている。

また、人口平坦地としては花崗土採取地跡で、詫間町の唐崎付近(約4ha)、神田西方(3ha)、中郷付近(1ha)、加嶺峠付近(1ha)などがある。

香川大学教育学部 高桑 紘

II 表層地質

1 表層地質概説

本図幅地域は、香川県の北西隅に位置し、中央部は高瀬川の涵養した沖積低地であり、主として沖積層からなっている。

この沖積低地をはさんで、東側は高さ300～400mの火上山～弥谷山系であり、西側は高さ300m前後の山塊が半島部を形成し、いわゆる七宝山塊の延長部にあたっている。更に北方の島嶼群（粟島、広島、佐柳島など）を含む地域である。

前述の周辺山塊および島嶼部の地質は、いずれも基盤は花崗岩であり、更にこれを不整合におおって、新第3紀の噴出にかかわる火山性岩石が広くおおっている。洪積層は、これら山塊群の周辺に、台地をつくり2段識別し得る。上位のものは極めて断片的であるが、下位のものはかなりのはんいで発達している。

2 表層地質各論

(1) 未固結堆積物（沖積世）

ア 泥がち堆積物（m）

泥がち堆積物は、河川のはんらん原の内後背湿地区に相当する部分に発達している。多度津町山階付近で著しい。

イ 砂がち堆積物（S）

砂がち堆積物は、その分布は狭くないが、臨海部に発達し、砂浜や陸撃砂州を形成している。代表的地区として詫間町須田および砂子付近があげられる。

ウ 砂礫がち堆積物（gs）

本堆積物が最も分布が広く、沖積低地の大部分をしめている。河川のはんらん原堆積物、小河川の扇状地堆積物、および各小溪流における土石流堆積物などがある。更に海岸沿いの低地および島嶼部の海岸にみられる。

エ 礫がち堆積物 (g)

前記砂礫がち堆積物の周辺に分布している。

オ 碎屑物 (崖錐) (c1)

山地および丘陵地の緩斜面には、火山性岩石および花崗岩の角礫よりなる崖錐が分布している。厚さは数m位で、厚い所で10m前後である。花崗岩丘陵地の周辺の崖錐は粗砂質で、風化帯部のマサと区別しにくい場合が多い。

(2) 半固結堆積物 (洪積世, 一部第3紀鮮新世)

半固結堆積物としては、洪積層と鮮新～洪積層の三豊層群とがある。とくに後者の三豊層群は軟岩状を呈している。洪積層は段丘状で2段識別し得る。

ア 砂礫および粘土 (低位堆積物 t₂)

山地周辺に高さ15～30m位の台地をつくり発達している。砂礫質で、時に粘土をまじえる。詫間町本村から田井にかけて、三野町大見周辺、高瀬町下勝間付近で著しい。

イ 砂礫および粘土 (高位堆積物 t₁)

分布は極めて断片的で、しかも小はんいである。詫間町的場付近の小丘陵地上に発達している。又詫間町小久保付近の平坦台地上に僅かながら分布している。この付近のものは崖錐と識別困難である。

ウ アルコーズ砂岩および泥岩 (Sm)

本層は花崗岩を基盤として堆積した湖沼性堆積物で、従来から三豊層群とよばれている。本地区では、高瀬町平池東北方の丘陵に僅かながら分布している。厚さは5m前後である。

(3) 火山性岩石 (新第3紀)

ア 玄武岩 (B)

多石基にして、後述の古銅輝石安山岩に、カンラン石の斑晶が入り玄武岩質となったもので、多度津町佐柳島に分布している。

イ 角閃安山岩 (Ah)

灰緑色～灰色の多斑晶質で、針状の角閃石の斑晶が著しい。高瀬町と三野町にまたがる葛の山、詫間町丸山島、および仁尾町家ノ浦付近に分布し

ている。

ウ 古銅輝石安山岩 (Ab_1)

本区域のものは典型的な讃岐岩ではなく、いわゆる讃岐岩質安山岩に属するものである。七宝山塊の志保山および紫雲出山、および火上山、天霧山などに、一部メサ状地形をつくって分布している。

斑晶としては、古銅輝石、単斜輝石、斜長石および角閃石、石基としては、ハリ、斜長石、古銅輝石、単斜輝石および磁鉄鉱がある。一般に節理が発達し、黒色ないし暗灰色、緻密質で斑晶に乏しい。

極めて堅硬で、骨材として利用度が高い。風化すればシルト質となり、このものは液性限界大で、耐食的である。

エ 流紋岩 (L)

本岩は普通寺市天霧山の南東麓に、僅かに分布するもので、斑晶に乏しく、ハリ質で、暗灰色の割合硬い岩石である。風化すると灰白色になる。所により松脂岩に近いものもある。斑晶として少量の石英および黒雲母、石基はガラス質で石英および斜長石などからなる。

オ 集塊岩 (Ag)

本岩はその分布地によって、多少岩種を異にする。多度津町佐柳島および高見島のもは両輝石安山岩質集塊岩、普通寺市、多度津町および三野町にまたがる天霧山～弥谷山系のもは、古銅輝石安山岩溶岩の下位に位置し、角閃～斜方輝石安山岩質集塊岩である。

カ 凝灰岩および凝灰角礫岩 (Tb)

前述の古銅輝石安山岩溶岩の下位に分布し、基盤の花崗岩上に直接不整合に座している。主として白色の酸性凝灰岩ないしは凝灰角礫岩で、流紋岩および黒雲母安山岩の角礫を含み、一部古銅輝石安山岩角礫を含む場合もある。部分的に成層している場合がある。

(4) 深成岩 (中生代)

ア 閃緑岩 (Dr)

大部分は普通の閃緑岩(斜長石、普通角閃石)で岩珠状に発達している。

イ 花崗岩類 (G)

本図幅全域の基盤を構成しているもので、大部分は領家花崗岩に属する。灰白色、中粒の完晶質の岩石で、その大部分は閃雲花崗岩ないしは花崗閃緑岩である。風化が著しく、時によると相当深くマサ化している場合がある。又北側の島嶼部では、更に新しい白亜紀花崗岩が発達し、それは黒雲母花崗岩である。

(5) 変成岩 (古生代)

ア 結晶質石灰岩 (Ls)

結晶質で細粒の方解石が密集している。これは上部古生代の石灰岩が花崗岩の熱変成作用によって生成されたものである。詫間町志々島の南海岸に分布している。

イ 雲母片岩および片麻岩 (Ms)

この岩類は高変成のもので、片状構造が著しく雲母類にとんだ黒色部と石英および長石にとんだ白色部とが互に密に互層している。一部では縞状片麻岩と称した方がよいものもある。主として島嶼部に分布している。

香川大学農学部 齊藤 実

III 土 壤

I 山地・丘陵地の土壤

(1) 概況

本地域の山地・丘陵地の土壤は、母材、堆積様式、断面形態の相違により、つぎの2土壤群に大別され、さらに5土壤統群、6土壤統に区分された。

土壤群	土壤統群	土壤統
未熟土	残積性未熟土壤	1 統
褐色森林土	乾性褐色森林土壤	1 "
	褐色森林土壤	1 "
	乾性褐色森林土壤（黄褐色系）	2 "
	褐色森林土壤（黄褐色系）	1 "

(2) 各論

ア 残積性未熟土壤

(ア) 丸山統 (Mar)

この土壤は海岸部の低山地および内海島嶼部とくに広島に広く分布する花崗岩と母材とするもの、黒戸山、弥谷山などに出現する安山岩類を母材とするものがあるが、いずれも強度の侵食を受けてA層はもちろん、B層の一部まで欠除する受食土壤である。一般にマツの疎林が多いが、生育は不良で林床植生もきわめて貧弱である。

イ 乾性褐色森林土壤

(イ) 白峰山1統 (Shal)

丘陵性山地の上部を覆う安山岩類および凝灰岩類を母材とし、山頂部および山復斜面に分布する乾性土壤である。A層の形成はうすく暗色を呈する。B層は腐植含量は少ないが、彩度が低く明度の高い灰褐色の土色を呈するものが多く、堆積はきわめて堅密で堅果状構造が発達する。

土層は一般に浅く、植生はクロマツ、アカマツ広葉樹の天然林となっているが、生育は一般によくない。

ウ 褐色森林土壌

(ア) 白峰山2統 (Sha2)

白峰山1統と同じ地域に分布するが、主として谷底斜面の狭小な範囲に帯状に出現する。白峰山1統よりもやや湿った環境にあるため、有機物の土層への侵入はやや良好で20 cm内外のA層が形成され、粗粒状および細かい堅果状構造が発達する。B層は灰黄褐色を呈するものが多く、堅密でカベ状である。主としてアカマツ、広葉樹の天然林となっているが、生育は中ようである。

エ 乾性褐色森林土壌

(ア) 国分寺1統 (Kob1)

この土壌は図幅内の丘陵性山地および内海の島嶼部の花崗岩地帯に分布し、尾根筋や山復斜面の大部分を占める乾性土壌である。A層の形成はきわめて薄いかあるいは不明りょうなものが多く、土壌構造の発達も貧弱である。B層は黄褐色を呈し、堆積は一般に堅密でカベ状を呈す。全土層は浅く深層風化を受けた花崗岩のC層に漸接する。母材の性質を反映して細礫に富み、土壌は砂質である。この土壌は概して未熟土の要素が強い。この土壌はアカマツ、クロマツと広葉樹の天然林が多いが、マツの生育は不良である。

(イ) 千疋1統 (Sen1)

この土壌は丘陵性山地の周縁に続く洪積台地面上に出現する。本図幅では高瀬町の上勝間、上高瀬などに局所的に出現している。砂礫の未固結堆積物を母材とし、全土層は浅く未熟土的である。A層の形成もきわめて貧弱で土色も淡色である。B層の堆積は一般にち密で、層全体に小中円礫に富む。アカマツと広葉樹の天然林となっているが、生育は不良である。

オ 褐色森林土壌 (黄褐色)

(ア) 国分寺2統 (Kob2)

国分寺1統と同じ地域に分布するが、谷底斜面の狭小な範囲に帯状に出現する弱乾性～適潤性土壌である。国分寺1統よりもやや湿った環境にあり、腐植含量はとくに多くはないが、腐植に汚染された暗色のA層もしくはA～B層が20～30cmぐらい形成される。土壌構造はとくに特徴的なものはなく、表層に粗粒状構造が若干みられるものもあるが、一般的にカベ状を呈するものが多い。B層は黄褐色の土色を呈し、カベ状でマサ土様のB～C層に漸移する。土層は一般に浅い。クロマツ、アカマツと広葉樹の天然林となっているところが多いが、その生育は良好とはいえない。

農林省林業試験場四国支場 井上輝一郎

2 台地低地の土壌

(1) 概説

本地域の土壌はその断面形態、母材、堆積様式により、つぎの3土壌群、6土壌統群に大別され、さらに15土壌統に細分された。

土壌群	土壌統群	土壌統
赤黄色土	黄色土壌	5統
灰色低地土	細粒灰色低地土壌	3統
	灰色低地土壌	2統
	粗粒灰色低地土壌	3統
グライ土	グライ土壌	1統
	粗粒グライ土壌	1統

(2) 各論

ア 黄色土壌

この土壌は主として山麓傾斜面から下位台地にかけて出現する。腐植含

量が低く暗色を呈しない。A層下に黄色の土層をもち、火山灰層、黒泥層、グライ層などが80cm以内に出現しない。本図幅内の山麓傾斜面から下位台地にかけて多く分布し、果樹園または普通畑として利用されている。生産性は中位である。

本土壤統群はつぎの5土壤統に細分される。

(ア) 栗熊統

これはトラ斑状の遺跡的酸化沈積物をもつ強粘質な土壤である。主に普通寺市の天霧山山麓に分布し、果樹園として利用されている。

(イ) 香南統

これは残積性の粘質な土壤で、詫間町の紫雲出山山麓、志志島、仁尾町の上家浦、曾保、普通寺市の三井浜に分布し、主に果樹園として利用されている。

(ウ) 讃岐統

これは安山岩または花こう岩を母材とする残積性または崩積性の壤質土壤である。土層は比較的厚く、礫に富んでいるが、礫層または岩盤は存在しない。本図幅内における山麓傾斜面または台地の各所に出現し、畑地土壤としては分布面積がもっとも多い。果樹園または普通畑として利用されている。

(ニ) 青ノ山統

これは主に安山岩を母材とする礫質の土壤で、比較的浅い位置から礫層が出現する。主に仁尾町の山麓傾斜面に分布するが、多度津町の西白方、大見町の貴峰山山麓にも分布がみられる。

(ホ) 大原統

これは主に花こう岩を母材とする粗粒質で、未熟な土壤である。丸亀市広島に分布し、主に普通畑として利用されている。

1 細粒灰色低地土壤

この土壤は沖積低地、谷底平野および下位台地に分布し、断面の主要土層が灰色～灰褐色を呈する粘質～強粘質な土壤である。水田として利用されており、生産性は中位である。

本土壤統群はつぎの3土壌統に細分される。

(ア) 佐賀統

これは断面の主要土層が灰色を呈し、マンガン結核をもつ強粘質な土壌である。主に高瀬町の下勝間付近および多度津町の一部に分布する。

(イ) 宝田統

これは断面の主要土層が灰色を呈し、マンガン結核をもつ粘質な土壌である。高瀬町の国市池の北部および東部付近と三野の九免明から出井にかけて分布する。

(ウ) 多々良統

これは断面の主要土層が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ粘質な土壌である。高瀬町の平見にごく少面積分布する。

ウ 灰色低地土壌

この土壌は断面のほぼ全層が灰色～灰褐色を呈する壤質な土壌である。沖積低地、下位台地および海岸平野に分布している。水田として利用されており、生産性は中位である。

本土壤統群はつぎの2土壌統に細分される。

(ア) 普通寺統

これは断面の主要土層が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ壤質な土壌である。普通寺の大池付近および詫間町の本村から長尾佐へかけて分布する。

(イ) 清武統

これは断面の主要土層が灰色を呈し、マンガン結核をもつ土壌である。土性はほとんど全層壤質であり、本図幅内では各地域にわたって出現し、分布面積がもっとも多い。

エ 粗粒灰色低地土壌

この土壌は下層土の土性が砂質であるか、または60cm以内より(砂)礫層が出現する灰色低地土である。谷底平野、扇状地および河川沿岸に分布が多く、水田として利用されている。透水性が過良であり、鉄、マンガン、珪酸、塩基が下層に溶脱されており、老朽化した土壌が多い。生産性は中

位～低位である。

本土壤統群はつぎの3土壤統に細分される。

(ア) 豊中統

この土壤は表層下の主要土層が砂質の土壤である。水もちが悪いために鉄、マンガンの溶脱が著しく、作土の斑鉄は極めて乏しい。三野町の汐木山の南東部および東浜、多度津町の海岸寺、詫間町の伊砂子から大浜へかけて分布する。

(イ) 追子野木統

この土壤は30～60 cm以内から砂礫層が出現する灰色土壤である。砂礫層上の土性は壤質であり、透水性がよく、作土下には斑鉄の集積層がみられ、マンガン結核も出現する。高瀬町下高瀬の東部（高瀬川東沿岸）および詫間町の田井付附近に分布がみられる。

(ウ) 国領統

この土壤は30 cm以内から砂礫層が出現するきわめて有効土層の浅い灰色土壤である。礫層上の土性は壤質で、細小円礫または角礫を含んでいる。主に高瀬町下高瀬（高瀬川下流の西沿岸）、大見および多度津町西村付近に分布する。

オ グライ土壤

この土壤は少なくとも表面から80 cm以内にグライ層をもつ壤質土壤である。水田として利用されているが生産性は低い。

本土壤統群に属する土壤統はつぎの1統のみである。

(ア) 上兵庫統

この土壤は作土直下からグライ層が出現する土壤である。仁尾町に少面積分布がみられる。

カ 粗粒グライ土壤

この土壤は下層土の土性が砂質であるか、または60 cm以内より砂礫層の出現するグライ土壤である。海岸低地に分布し、水田として利用されているが、生産性は低い。

本土壤統群に属する土壤統はつぎの1統のみである。

(7) 竜北統

この土壤は砂礫層が60 cm 以内より出現するグライ土であり、詫間町詫間および仁尾町の海岸付近に分布する。

香川県農業試験場 大熊 正寛

IV 傾斜区分

傾斜区分は地表の傾斜が 40° 以上、 30° 以上 40° 未満、 20° 以上 30° 未満、 15° 以上 20° 未満、 8° 以上 15° 未満、 3° 以上 8° 未満、 3° 未満の7段階に分類し、これを等高線の間隔による定規を使って区分した。

40° 以上の急傾斜地は、天霧山の中腹以高、弥谷山の北斜面、黒戸山中腹、貴峰山山頂部、火上山の山頂に近い北斜面と南東斜面中腹部、爺神山中腹、七宝山の中腹以高、紫雲出山の山頂部を囲む一帯、高見島の北西斜面と南東部の山頂平坦面周辺、佐柳島西斜面、広島では北東部の迎木山西斜面、立石北方山頂部南側、南西の採石場が集中する大戸山から青木付近の中腹以高の地域、手島では尾方山山頂部南側斜面などにある。また、海崖の発達している岬の先端部や丸山島・葛島など小島の周縁に分布する。

30° 以上 40° 未満の地域は山腹の 40° 以上の急斜面の周囲に拡がり、天霧山・弥谷山の中腹以下、貴峰山西方の山頂部、火上山西斜面、鬼が白山・汐木山などの山腹、志保山から妙見山へかけての中腹部、紫雲出山周辺、室浜から三崎付近の山地、高見島の山腹、佐柳島北部、広島の北部と南西部の山腹一帯、手島の尾方山北斜面と南部山地の南斜面などにまとまった分布地がある。

20° 以上 30° 未満の地域は各山地の山麓に多く、多度津町の桃陵公園、貴峰山山腹、火上山南部、鬼が白山山麓、志保山西部、妙見山西斜面から大浜にかけての山地一帯、生里付近の山地、粟島の山地周辺、志志島、広島の立石付近の山腹、大戸山北部、手島の尾方山山麓と南部山地の北斜面などに分布する。

15° 以上 20° 未満の地域は山麓の一部に散在することが多く、桃陵公園西麓、弥谷山山腹の一部と山麓、火上山北部と西部、鬼が白山西麓、詫間越付近一帯、紫雲出山北麓、広島中部の山頂と山腹など各所に見られる。

8° 以上 15° 未満の地域は山麓部や低い丘陵の一部に分布するが、多度津町の奥白方付近、火上山山麓、志保山東麓、仁尾峠と詫間峠の間にある山地の山麓部、紫雲出山北麓、高見島山頂、広島の立石・茂浦・甲路などの山麓部、その他に分布している。

3°以上8°未満の地域は下位台地や海岸の低地などに多いが、多度津町の見立・奥白方付近、三野町の大見台地、高瀬町の下高瀬付近、原付近、志保山周縁の台地や低地、荘内半島の海岸付近に散在する低地、広島各湾頭にある低地、手島中部の低地などがその主要な分布地である。

3°未満の平坦な地域は河川沿岸の沖積地や海岸にあるやや広い面積を持つ低地に分布し、弘田川・高瀬川下流沿岸一帯に拡がり、仁尾町の江尻から古江にかけての低地、詫間町の埋立地や池尻から須田付近、家浦・大浜・鍋尻など浜堤内部の低地などもその例である。

香川大学教育学部 高桑 糺

V 水系・谷密度

仲多度郡多度津町の桃陵公園と弥谷山との間にある低地は弘田川の氾濫原で、この川の支流には、普通寺市の我拝師山を水源とする西谷川、弥谷山南側から流出する二反地川、同山北側斜面から流れる観音堂川などがある。

この地域で最大の流域を持つ高瀬川は三豊郡高瀬町の山地・丘陵地・台地から流出し、我拝師山・火上山南側斜面から流れ出す乙田川、爺神山南東方の低地・台地を流れる古子川、三野町東部の山地から流出する水谷川・浜東川、同町東部の山地に水源がある瀬入川などの支流を合せて詫間湾に流入する。

仁尾町には仁尾港付近に河口があり、町の中心部の低地を氾濫原とする江尻川を始め、志保山西側を水源とする長谷川・天王川、北部の妙見山・高尾下山から流出する坂川・田井川などの河川が燧灘へ流れ込んでいる。

詫間町や多度津町佐柳島・小島・高見島、丸亀市手島・小手島には大きな川は見られず、同市広島には南流する江の浦川のほかに川らしい川はない。

谷密度は水系図に5万分の1地形図の各辺を40等分した方眼をかけ、各方眼の周辺を切る水系の数を読み、4区画ずつ合計して区分した。

谷密度の低い地域は高瀬川沿岸の氾濫原や埋立地に集中し、荘内半島や島の湾頭にある低地にも分布する。また、溶岩台地とした佐柳島・高見島や山頂部が厚い安山岩から成る汐木山・爺神山などの円錐型ビュートの山腹も谷密度が低い。

谷密度の高い地域は山頂平坦面のない山地の中腹から山麓にかけて発達し、弥谷山から黒戸山付近、貴峰山西方、火上山・鬼が白山の一带、志保山から妙見山をへて紫雲出山にかけての山地一带、広島などに広く分布している。

香川大学教育学部 高桑 糺

VI 防 災

防災図には大雨時の湛水・冠水地域，地すべり危険箇所，地すべり・山崩れ地点，砂防指定地，流路工，砂防堰堤工，重要水防区域，河床勾配の遷移点，防潮水門，防潮堰堤，潮位観測所，雨量観測所，おもな宅地等造成地，ゴルフ場，採石場密集地などを図示してある。

この地域は昭和21年12月21日の南海地震による地盤沈下以後大雨の際に湛水する範囲が拡大した。とくに高瀬川下流沿岸の三野津新田の干拓地一帯が広く湛水し，三野町の汐木・田中・西浜・中樋・東浜・出井・浅津・唐崎，詫間町の池尻・州鼻などの水田地帯が水没する。また，詫間町の田井付近・浜田西方の旧塩田などにある低湿地，鍋尻西方の浜堤の内側の後背湿地，仁尾町で江尻付近の同様の低湿地などがよく湛水する。

多度津町では弘田川沿岸の西村から阿庄付近が湛水したが，ここは重要水防区域に指定されている。同区域はこのほか，高瀬川の高瀬町の法事から新名付近，東浜から詫間町の石川橋まで，仁尾町で江尻川の下流沿岸が指定されている。

丸亀市広島でも地盤沈下の影響で各地に湛水しやすい地域を生じた。その全域が浜堤の後背湿地に相当する地域であって，立石では低地南西部の川口付近約2haが浸水し，江の浦では神社西方の低湿地約1ha，青木では海岸に沿う道路の南部が約0.5ha，市井では西部の湿地が約1ha，茂浦でも西部の低地が水没する。手島の中央部にある低地東南部もよく浸水し，海岸近くに防潮水門がある。防潮水門は立石や茂浦にも設置されている。

また，多度津町の弘田川で予讃線海岸寺駅東方，詫間町で石川橋北方など5か所，仁尾町の江尻などにも防潮水門があり，詫間町や仁尾町ではポンプで強制排水を実施している。

砂防指定地は多度津町の奥白方，高瀬町の平見，および成行西方，仁尾町の曾保・浦の谷・南草木・北草木・古江，丸亀市広島では江の浦川に沿って設定されている。

また，防潮堰堤は広島の上立石・江の浦・青木・市井などの海岸にある。

採石場はとくに広島西部の青木・甲路・釜の越付近に密集し、70数か所で花崗岩石材や埋立用捨石を生産している。採掘が放棄された人工急崖や石屑による災害の防止対策が必要であろう。

善通寺市十五丁の天霧山中腹南東斜面，高瀬町爺神山中腹北斜面と東斜面，三野町汐木山山頂部南側などでは碎石用として讃岐岩質安山岩などを採取しているが，山形は著しく変容し，急崖や石屑堆積の崩壊の危険ばかりでなく，天霧山など貴重な史跡の破壊も目前に迫っており放置はできない。

地すべり危険箇所と地すべり・山崩れ地点については，その位置・標高・面積・崩壊方向などを表に示してある。

香川大学教育学部 高桑 紘

表1 地すべり危険箇所の表

番号	位置	標高(m)	面積(㌔)	崩壊方向
三豊郡三野町				
1	火上山南西麓	140～60	14	北西
2	鳥坂	160～60	14	西～北西
3	弥谷山南斜面	380～80	20	南西
4	貴峰山北方	160～60	9	北
5	西久保	120～20	15	北
6	汐木山東斜面	140～20	14	東～南
三豊郡詫間町				
7	水出西南方	120～10	6	北西
8	大谷	40～10	3	南東
9	塩生	80～10	9	南南東
10	大浜	40～20	3	南
11	波止艾(はとよもぎ)	60～20	4	南
12	肥地木	60～0	4	南西
13	生里	40～0	5	南
14	糸の越(いとのかし)	60～0	2	北
15	城山東麓(粟島)	40～0	6	東
16	宮浦(志志島)	40～0	3	東

表2 地すべり・山崩れの表

番号	位置	標高(m)	面積(㎡)	崩壊方向
丸亀市広島町				
1	江の浦	25	0.05	南西
2	甲路	25	0.50	南東
3	青木	30	0.50	西
4	小手島東部	15	0.01	東
普通寺市				
1	東碑殿	25	5.0	東
2	天霧山南東斜面	300	9.0	南東
3	大池南西方	60	4.5	北
4	三井の浜	100	1.1	北
仲多度郡多度津町				
1	桃陵公園北部	50	1.0	北
三豊郡高瀬町				
1	葛の山西斜面	50	0.2	西
三豊郡仁尾町				
1	上家の浦	50	1.0	西
2	家の浦南方	50	1.0	南
3	天神山	30	1.0	南
4	古江上	60	1.0	西

番号	位置	標高(m)	面積(ta)	崩壊方向
5	古江上西方	80	2.0	西
6	朝日	90	2.0	南
7	平原	60	1.0	西
8	加嶺西方	50	2.0	南
9	広江南西方	100	1.0	北
10	広江	150	1.0	西
11	曾保	40	1.0	西
12	曾保南方	70	1.0	西
三豊郡三野町				
1	火上山西斜面	70~140	33.0	西
2	鳥坂	85	30.0	西
3	天道東方	70~185	25.0	南西
4A	黒戸山西斜面	130	25.0	西
4B	天道北西方	60	2.0	東
5	西久保	60	10.0	東
6	汐木山南西斜面	100~25	9.6	南西
7	片山南方	50~120	9.0	北
8A	円道南西	140	5.0	北
8B	円道南西	140	5.0	東

VII 開 発 規 制

開発規制図には、国立公園・県立公園・保安林・休猟区・銃猟禁止区域・海岸保全区域・史跡・天然記念物・埋蔵文化財などを図示してある。

この地域には昭和9年に設置された瀬戸内海国立公園が各島を含んで広い範囲に分布し、丸亀市では手島・小手島全域と花崗岩の石材である青木石の採掘が盛んな青木・甲路など西部を除く広島の大部分、仲多度郡多度津町では佐柳島・小島・高見島・二面島および亀笠島・岩島の全域、三豊郡詫間町では粟島・志志島の全域と箱崎から糸の越・仁老浜・室浜の山地部を経て関の浦・三崎に至る荘内半島先端部およびほぼ海拔100m以上の紫雲出山一帯、さらに丸山島全域、同郡仁尾町では家の浦の半島部と大葛島・小葛島の全域がその中に包含されている。

県立公園としては昭和22年に設定された多度津町の桃陵公園がある。

保安林は魚つき保安林が多度津町の亀笠島、詫間町粟島の阿島山西麓・城山北麓・不天西方、同町高谷半島の高谷鼻南東部・高谷西方・恵美東方、黒崎北方、糸の越西方、箱崎付近、室浜から関の浦にかけての一帯、三崎から仁老浜西方までの一帯、仁老浜南方の半島部、古三崎付近、錦根付近、鴨の越西方、丸山島全域、仁尾町の家浦南方から古江西方まで、大葛島南西部、小葛島全域、天王から浦の谷に至る一帯などにある。また、土砂流出・土砂崩壊防止保安林は丸亀市広島江の浦北西部、立石北西部、多度津町の弥谷山と黒戸山の間にある谷の斜面、高瀬町の音田付近・楠井付近・中浦付近・鬼が白山付近、三野町の大原付近と北村西方の山腹、詫間町に加嶺峠付近と詫間峠付近、上和田内と名部戸中間の山地、恵美付近、箱南西方、糸の越東方、肥地木北部、錦根付近、波止艾付近、大浜から名部戸へかけての一帯、仁尾町では上家の浦付近、妙見山山腹、詫間越から加嶺峠へかけての一帯、南草木付近、天王付近などに設けられている。防風保安林は詫間町の伊砂子に存在する。

休猟区は詫間町浜田と仁尾町古江を結ぶ県道詫間仁尾線以西の荘内半島全域が

その範囲である。

銃猟禁止区域は多度津町の白方・嶽下・宿地・本村・山階北山・岡・兵田・西白方を含む一帯とその北方約 1.5 km までの海面に設定され、高瀬町では勝田池・国市池の周辺に設定されている。これはカモ類その他の保護を目的としたものであるが、多度津町の同域の海面は大部分が埋立てられた。

海岸保全区域は農林省関係が丸亀市広島で北端のはじかみ鼻付近とその南方、田の浦付近と白石北方、手島で西の浦とその南方、小手島の南西岸、多度津町で佐柳島北端と高見島の板持付近、三野町で久保谷付近、詫間町で高瀬川河口付近、粟島の不天の州・塩谷・姫路、志志島北部、積東方、黒崎北方、箱東方、小蔦島北部、浦の谷付近など、運輸省関係が多度津町で佐柳島東岸・多度津港北部・本村付近・見立付近、詫間町で松崎付近、的場とその西方、砂川から浜田まで、大谷・高谷付近、新浜から香田まで、志志島の宮の浦付近、仁尾町で古江付近、旧仁尾塩田東部の海岸、南草木付近、建設省関係が広島甲の甲路南部、多度津の海岸寺付近、詫間町で水出付近、粟島の永浜・松本から竹の浦、鍋尻・伊砂子付近、仁老浜・家の浦などの海岸にある。

国の史跡・名勝・天然記念物はないが、県指定の史跡としては小蔦島貝塚（仁尾町）・辻の札場（仁尾町）・弥谷山信仰遺跡（三野町）、県天然記念物としては柞原寺のクロマツ（高瀬町）・志志島の大クス（詫間町）がある。善通寺市・高瀬町・仁尾町・詫間町・三野町などでは市・町の史跡・名勝・天然記念物を指定しており、これらと埋蔵文化財などは市郡別に表示してある。

香川大学教育学部 高桑 糺

史跡・名勝・天然記念物・遺跡などの表

番号	種 別	名 称	所 在 地
丸 亀 市			
1	しし垣	鹿塚としし垣	広島町, 茂浦
2	散布地 (弥生)	心経山盤界遺跡	" , 青木
3	" (")	江の浦遺跡	" , 江の浦
4	古墳 (円墳)	手島古墳	" , 手島
善 通 寺 市			
1	市史跡	逆修塔蛇石	碑殿町, 西碑殿
2	古墳 (円墳)	鶴背古墳	" , "
3	城址	天霧城址	吉原町, 穴井
4	市史跡	月照上人牛額寺	碑殿町, 田中
5	寺院跡	常住寺跡	" , "
6	古墳 (円墳)	御墓石古墳	" , "
7	" (")	矢の塚 1号	" , 矢の塚
8	" (")	矢の塚 2号	" , "
9	古墳群 (")	東西神社古墳群	吉原町, 吉原
10	市史跡	片山権左衛門碑	" , 蓮池
11	" (自然石)	人面石	碑殿町
12	"	水茎の丘	吉原町, 水茎
13	寺院跡	大窪寺跡	" , 火上山

14	古墳（円墳）	三井の浜古墳	吉原町，三井の浜
15	"（"）	曼荼羅寺古墳	"，曼荼羅寺
16	市史跡	西行句碑	吉原町西洲
仲多度郡多度津町			
1	古墳（円墳）	向井原古墳	奥白方
2	"（"）	第18号古墳	"
3	"（"）	第19号古墳	"
4	"（"）	黒戸山古墳	"
5	"（"）	第24号古墳	見立
6	"（"）	古見立古墳	"
7	"（"）	第15号古墳	奥白方
8	"（前方後円墳）	第14号古墳	"
9	"（円墳）	第13号古墳	"
10	"（前方後円墳）	第12号古墳	"
11	"（"）	御産鹽山古墳	西白方
12	"（円墳）	経納山古墳	"
13	"（前方後円墳）	第16号古墳	奥白方
14	"（円墳）	第5号古墳	"
15	"（"）	盛土山古墳	"
16	"（"）	第6号古墳	"
17	散布地（弥生）	舟岡山遺跡	山階
18	古墳（円墳）	第7号古墳	奥白方

19	古墳（円墳）	鳥打古墳	鳥打
20	"（"）	前山塚古墳	東白方
21	"（"）	時公塚古墳	"
22	県民俗資料	長崎の埋め墓	佐柳島長崎
三豊郡高瀬町			
1	散布地（弥生）	平見遺跡	上高瀬，平見
2	出土地（隆平永宝）	青井谷遺跡	"，青井谷
3	古墳（横穴）	堂が鼻古墳	"，上の荘
4	"（"）	青井谷遺跡	"，青井谷
5	町天然記念物	山の神社社のマツ	"，中浦
6	出土地（青銅骨壺）	北原遺跡	"，北原
7	古墳（円墳）	城山古墳	"，城山
8	"（前方後円墳）	茶白山古墳	"，北条
9	出土地（青銅骨壺）	北条遺跡1	"，"
10	古墳（円墳）	大神宮古墳	"，"
11	出土地（広形銅剣）	北条遺跡2	"，"
12	散布地（弥生）	山奥遺跡	"，山奥
13	古塚	下女塚	"，土井
14	古墳（円墳）	権現古墳	"，"
15	出土地（弥生）	天神遺跡	"，"
16	古井戸	土井城井戸	"，楠井
17	古塚	榎塚	"，土井

18	出土地（石碑）	土井坂遺跡	上高瀬，土井
19	古墳（円墳）	山伏塚古墳	“ ， “
20	“（“）	巖島古墳	“ ， 川下
21	古墳址	おかめ塚	“ ， “
22	出土地（弥生）	竹浅遺跡	“ ， 竹浅
23	経塚	長法寺経塚	“ ， 長法寺
24	“	砂古経塚	“ ， 砂古
25	古墳（円墳）	三背鼻古墳	“ ， “
26	経塚	法華経塚	“ ， “
27	出土地（須恵）	天古遺跡	“ ， 長法寺
28	古墳群（円墳）	利生寺古墳群	“ ， 矢の岡
29	古墳（“）	やすみ場古墳	“ ， 大道
30	出土地（弥生）	寺蔵原遺跡	“ ， 矢の岡
31	石塔（室町）	石の塔	勝間，原
32	城址	勝間城址	“ ， “
33	県天然記念物	柞原寺のクロマツ	“ ， 加茂
34	石層塔	石層塔	“ ， “
35	出土地（はにわ）	城原遺跡	上高瀬，城原
36	古墳群（円墳）	爺神山古墳群	比地二，爺神
37	城址	爺神城址	“ ， “
38	窯跡	瓦谷窯跡	“ ， “
39	経塚	尊登法親王の経塚	“ ， “
40	古塚	蛇塚	“ ， 南郷

41	町天然記念物	阿弥陀堂のクロマツ	比地二，下司
42	出土地（石斧）	成行遺跡	“ ，成行
三豊郡仁尾町			
43	町天然記念物	薬師庵の菩提樹	浦の谷
44	貝塚（縄文）	南草木貝塚	南草木
45	県史跡（ ” ）	小蔦島貝塚	小蔦島
46	町天然記念物	吉祥院の万寿柏	樋の口
47	県史跡	辻の札場	境目
48	町天然記念物	賀茂神社の羽衣の松	大北
49	町史跡	石積の井戸	道場前
50	町天然記念物	常德寺の雌雄のソテツ	矢田
51	散布地（縄文）	大蔦島遺跡	大蔦島
52	町名勝	妙見宮	妙見山中腹
三豊郡詫間町			
53	散布地（弥生）	北谷遺跡	名部戸，北谷
54	古墳（前方後円墳）	こぶし遺跡	鴨の越
55	町名勝	紫雲出山	大浜
56	散布地（弥生）	紫雲出山遺跡	紫雲出山頂
57	町史跡	海崎城址	生里
58	“	関の浦	三崎半島先端
59	町天然記念物	たて石	“

60	町天然記念物	ムロの木	室浜
61	町史跡	箱斥候所跡	箱
62	町天然記念物	香蔵寺のソテツ	"
63	散布地（縄文）	箱遺跡	"
64	寺跡	船種寺跡	積，新田道下
65	"	十輪院本堂跡	積
66	古墳群（円墳）	吉吾鼻古墳	積，稻荷神社
67	散布地（縄文・弥生・ 師案）	船越神社遺跡	"，大浜
68	古墳（方墳）	船越境内古墳	"，"
69	散布地（縄文）	船越遺跡	船越
70	丁場跡	三四郎岩	香田
71	古墳（群墳）	古岡山古墳	天満
72	城址	詫間城址	本村下
73	町天然記念物	ムクの木	松崎，北浦
74	旧家跡	宗良親王旧跡	田井中
75	寺跡	神宮寺跡	神田
76	古墳	蟻の山古墳	宮の下
77	散布地（弥生）	猪の崎遺跡	中郷
78	"（縄文）	蟻の首遺跡	蟻の首
79	町天然記念物	桂状石	松崎，唐島
80	"	アツケン草	松浦，北浦
81	散布地（弥生）	水出遺跡	松崎，水出
82	古墳（円墳）	とっこ古墳	粟島，満

83	城址	城の山跡	粟島, 城の山
84	散布地 (縄文)	西浜遺跡	" , 西浜
85	" (縄文・弥生)	東風浜遺跡	" , 東風浜
86	古墳	東風浜古墳	" , "
87	" (円墳)	馬城1号墳	" , 馬城
88	" (")	馬城2号墳	" , "
89	散布地 (師楽)	馬城遺跡	" , "
90	古墳 (円墳)	水尻古墳	" , 水尻
91	散布地 (師楽)	不天遺跡	" , 不天
92	県天然記念物	志志島の大クス	志志島, 利益院
三豊郡三野町			
93	町名勝	津島神社	大見, 久保谷
94	古墳 (円墳)	新開古墳	" , "
95	県史跡	弥谷の信仰遺跡	弥谷山中腹
96	古墳群 (円墳)	深尾古墳群	大見, 深尾
97	古墳 (")	丸尾古墳	" , 丸尾
98	窯跡	手石場窯跡	" , 手石場
99	古墳 (円墳)	かなぐら古墳	吉津, 北村

1976年3月 印刷発行

瀬戸内海観光施設整備地域
土地分類基本調査

仁尾・寄島

編集発行 香川県企画部企画調整課
高松市番町4丁目1番10号

印刷 (地図) 内外地図株式会社
東京都千代田区神田小川町3-22
(説明書) 株式会社 美巧社
高松市多賀町1丁目8-10